

特別展

美の発見

〜日本画の冒険者たち〜

京都国立近代美術館所蔵作品を中心に



上村松園「虹を見る」(右隻・部分) 昭和7(1932)年 京都国立近代美術館蔵

平成27年

10月6日[火] ~
11月29日[日]

※会期中一部展示替えがあります。

美術講演会 開催場所: 展示室

- ◆上村 淳之 (松伯美術館 館長) 10月17日[土] 14:00~15:00
- ◆榊原 吉郎 (京都市立芸術大学名誉教授) 11月7日[土] 14:00~15:00

- 休館日/月曜日 (但し10月12日[月]、11月23日[月]は開館し、10月13日[火]、11月24日[火]は休館します)
- 開館時間/午前10時~午後5時(入館は午後4時まで)
- 入館料/大人(高校生・大学生含む)…1,030円 小学生・中学生…510円
※20名以上の団体は1割引、身体障がい者手帳のご提示により
ご本人と同伴者1名まで2割引

割引入館券を近鉄の主要な駅にある駅営業所にて販売しております。
※学園前駅では販売していません

- 発売期間/平成27年9月24日(木)~11月29日(日)
- 割引入館料金/大人(高校生・大学生含む)…820円
小学生・中学生…400円

【主催】公益財団法人松伯美術館/毎日新聞社 【協力】京都国立近代美術館



土田麦徳「大原女」昭和2(1927)年 京都国立近代美術館蔵

松伯美術館
SHOUHAKU ART MUSEUM





徳岡神泉《池》昭和27(1952)年

上村松園《虹を見る》昭和7(1932)年



堂本印象《詞梨帝母》大正11(1922)年



小野竹斎《奥の細道句抄絵 笠嶋はいづこさつきのみかり道》昭和51(1976)年
(10月6日~11月1日展示)



榊原紫峰《白蓮図》昭和3(1928)年頃
©Ayako Sakakibara 2015/JAA1500141



麻田鷹司《鳥のいる作品》昭和28(1953)年
©Teruko Asada 2015/JAA1500141



吉岡堅二《野火》昭和50(1975)年

『日本画』という 枠の存在

個性と伝統

千年を超える日本の伝統的絵画は様々な手法や表現様式があり、またそれぞれ多くの流派に分かれ、それが絵師や絵を指す呼称となっていました。明治に入り西洋絵画(油絵)と区別するために新たに「日本画」という言葉が使われ始めました。職人的な絵師から日本画家へ。無視出来ない伝統を背負い、また激動する社会思想の波にもまれながら、画家たちは新しい表現を模索して個々に様々な冒険を続けてきました。本展では京都国立近代美術館ご所蔵品を中心に、明治、大正、昭和と、独自の画風で人々を魅了した個性豊かな画家たちの作品をご紹介します、「日本画」の可能性とその魅力を感じて頂く機会となることを願っております。

掲載の作品はすべて京都国立近代美術館蔵



菊池契月《朱唇》昭和6(1931)年

美術講演会
〈開催場所:展示室〉

◆上村 淳之 (松伯美術館 館長)
10月17日(土) 14:00~15:00

◆榊原 吉郎 (京都市立芸術大学名誉教授)
11月7日(土) 14:00~15:00

松伯美術館

SHOUHAKU ART MUSEUM

〒631-0004 奈良市登美ヶ丘2丁目1番4号
TEL 0742-41-6666 FAX 0742-41-6886
URL <http://www.kintetsu-g-hd.co.jp/culture/shohaku/index.html>

次回
展覧会

松園・松篁・淳之「温故知新」展 ~古典は宝の山!~
平成27年12月12日(土)~平成28年1月31日(日)
(年末年始12月28日(月)~1月4日(月)は休館)

松伯美術館友の会 会員を募集しております。皆さまのご入会をお待ちしております。

【交通のごあんない】

近鉄奈良線〈学園前駅〉北口バスターミナル⑥番のりばよりバスで約5分、〈大洲橋(松伯美術館前)〉下車、大洲橋を渡った右側。
※駐車台数に限りがあるため、できるだけ「電車・バス」でお越し下さい。

